

2022年度 活動状況

※定款第4条該当項

※	演奏会名	演奏回数	入場者数	備考	
第一項第一、二号	定期演奏会	24回	35,289人	Aシリーズ 東京文化会館 8回 Bシリーズ サントリーホール 8回 Cシリーズ 東京芸術劇場 8回	
	プロムナードコンサート	5回	8,280人	サントリーホール 5回	
	自主公演 特別演奏会	10回	15,448人	<都響スペシャル> 東京オペラシティ コンサートホール 1回 東京芸術劇場 1回 サントリーホール 4回 <第九> 東京芸術劇場、東京文化会館、サントリーホール 各1回 <八王子シリーズ> J:COMホール八王子 1回	
	小計	39回	59,017人		
	共催・提携公演 都響・調布シリーズ	1回	790人	提携：公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団	
	オーケストラ・キャラバン	2回	1,901人	共催：公益社団法人日本オーケストラ連盟 倉敷市民会館、山陽新聞社、FM岡山 高知県立県民文化ホール、高知新聞社、RKC高知放送	
	ボクとわたしとオーケストラ	2回	2,484人	共催：NPO法人いわきの子どもたちに音楽を届ける会 いわき芸術文化交流館アリオス 株式会社いわき市民コミュニティ放送	
	ふれあいコンサート	1回	887人	共催：東京都、公益財団法人日本チャリティ協会	
	小計	6回	6,062人		
	依頼公演	25回	30,062人	地方公共団体、文化振興団体等	
第二号項	音楽鑑賞教室	47回	42,575人	主催：各市区教育委員会等 都内16区市、他6校	
	マエストロ・ビジット	0回	0人		
第一項第二、三号及び第二、三号	映像配信等	19回 [19回]	—	映像配信及び配信用収録	
	小規模演奏会等	78回	11,265人		
	公開リハーサル・公開ゲネプロ	5回	343人		
	放送・録音	CD、DVD用録音等	0回 [3回]	—	[]内は同時録音等
		CD、DVD制作	0回 [2回]	—	[]内は同時録音等
		放送用録音、放送	11回	—	
小計	11回 [5回]	—	下記注1参照		
	合計	230回	149,324人		

注1 「映像配信等」「放送・録音」の[]内は自主公演等の同時録音等であり、外書である。

<参考>公益財団法人東京都交響楽団定款

第4条 この法人は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- 一 公開演奏
- 二 青少年のための演奏事業
- 三 その他の音楽芸術普及事業
- 四 その他前条の目的を達成するために必要な事業

2 前項の事業を推進するために行う音楽演奏事業及びその他の付帯事業

3 第1項及び第2項の事業は東京都において行うものとする。

1 事業の概要

引き続き新型コロナウイルスの感染不安の中にはあったが、少しずつ状況も好転し、編成の大きい作品も採り上げる等、ほぼ当初予定通りの演奏活動を実施することができた。芸術性の高い先駆的で多彩な活動に取り組み、合計 230 事業、約 14 万 9 千人に演奏をお届けした。

楽団が主催する自主公演は、楽団の芸術活動の中軸をなす定期演奏会をソワレ公演の A シリーズ（東京文化会館）・B シリーズ（サントリーホール）、マチネ公演の C シリーズ（東京芸術劇場）の計 24 回実施。また、親しみやすいプログラムを中心として幅広い層に親しまれているプロムナードコンサートを 5 回、そのほか、特別演奏会として年末恒例の「第九」公演や「八王子シリーズ」公演等を計 10 回実施し、合計 39 回、約 5 万 9 千人を動員した。

共催・提携公演は、公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団との提携による「都響・調布シリーズ」公演、公益社団法人日本オーケストラ連盟他との共催による「オーケストラ・キャラバン」（倉敷・高知）公演、2012 年より実施している被災地支援「ボクとわたしとオーケストラ」（いわき市）公演（2 回）のほか、東京都、公益財団法人日本チャリティ協会とともに実施した「障害者のためのふれあいコンサート」公演の合計 6 回実施した。

地方公共団体や文化振興団体等からの依頼公演は、実行委員会形式で開催した「TOKYO MET SaLaD MUSIC FESTIVAL [サラダ音楽祭]」のオーケストラ公演ほか、東京・春・音楽祭、フェスタサマーミュージア KAWASAKI 2022、新国立劇場 2022/2023 シーズンオペラ『ボリス・ゴドゥノフ』等、合計 25 公演に出演した。

青少年を対象とした音楽鑑賞教室（オーケストラ公演）を都内 16 区市と私立学校 1 校、教育庁との連携による「子供を笑顔にするプロジェクト」の一環で都内の公立学校 5 校にて合計 47 回実施し、オーケストラ鑑賞の機会や演奏家とのふれあいを通じて、約 4 万 3 千人の子供たちに音楽の持つ魅力や楽しさを伝えた。

小規模演奏会は、多摩・島しょ地域、東日本大震災の被災地での演奏を継続的に実施したほか、教育庁との連携事業や「サラダ音楽祭」でのミニコンサート等、合計 78 回実施した。

また、メディアへの露出も積極的に行い、ファンの拡大を図った。TOKYO MX2 の番組『アンコール！都響』では、過去の演奏会から厳選した曲をノーカットで放送している。加えて、演奏映像のインターネット配信に力を入れ、自主公演における過去公演の映像配信や配信用映像の収録等、多岐にわたる活動を繰り広げた。

2 事業の内容

2022年度の演奏活動は、定期演奏会を中心に年間230事業を実施した。

I 公開演奏（定款第4条第1項第1、2号）

(1) 自主公演

ア 定期演奏会（24回）

当団の芸術活動の中軸をなす定期演奏会は、1965年の楽団創立以来、創造性に満ちた幅広い内容の企画による演奏会開催を目標とし、日本の音楽創造活動の牽引力となるべく、高い水準の先駆的な活動を継続している。

Aシリーズを文化会館で8回、Bシリーズをサントリーホールで8回、Cシリーズを東京芸術劇場で8回（うち3回は平日昼開催）、合計24回開催した。

音楽監督大野和士は6公演に登壇し、都響の中心レパートリーであるマーラーを軸に選曲した6つのプログラムを披露。いずれも高水準の演奏で聴衆から高い支持を得た。

シーズン幕開けの第948回は、都響ソロ・コンサートマスター矢部達哉が独奏を務めたR.シュトラウス《英雄の生涯》とシューマンのピアノ協奏曲（ピアノ：藤田真央）の組み合わせによるドイツ・ロマン派傑作選を。続く第949回では、都響首席奏者の広田智之のソロでR・シュトラウス《オーボエ協奏曲》とマーラーの交響曲第5番を指揮し、オーケストラと息の合った演奏で客席を沸かせた。

第958回では、演奏される機会が少ないヤナーチェク《グラゴル・ミサ》の「1927年第1稿」を充実の独唱・合唱ともに紹介した。このほか、第957回のオール・ブラームス・プログラム、第970回のマーラー《復活》（独唱：中村恵理、藤村実穂子）、そして、2023年が生誕100年のメモリアル・イヤーにあたる20世紀最大の作曲家ジェルジ・リゲティをフィーチャーした第971回と、幅広いレパートリー持つマエストロならではのセンスが光るプログラムを採り上げた。とりわけ、第971回は、独奏を務めたヴァイオリニスト、パトリツィア・コパチンスカヤの超絶技巧と客席をも巻き込んだ圧巻のパフォーマンスがオーケストラと想像を超えた“化学反応”を起こし、都響の演奏史に残る凄演となった。

首席客演指揮者アラン・ギルバートは、7月の第955回、第956回でモーツァルトの三大交響曲（第39番～第41番《ジュピター》）を指揮。偉大な作曲家の作品に対する説得力ある演奏で絶賛を博した。

終身名誉指揮者小泉和裕は、チャイコフスキーの交響曲第4番、清水和音と共演のラフマニノフのピアノ協奏曲2番（第950回）、メンデルスゾーンの交響曲第5番《宗教改革》、ベートーヴェンの交響曲第3番《英雄》（第953回）、シェーンベルクの《浄められた夜》、ブラームス（シェーンベルク編曲）のピアノ四重奏曲第1番（第965回）といった盤石なプログラムで聴衆を惹きつけた。

桂冠指揮者エリアフ・インバルが第962回で採り上げたブルックナーの交響曲第4番《ロマンティック》は、都響では23年ぶりとなる「第1稿」で演奏した。前半のウェーベルン《管弦楽のため6つの小品》との意欲的な組み合わせもこの演奏会の聴きどころのひとつとなった。第963回、第964回では、フランクの傑作交響曲

の魅力を存分に伝えた。

客演指揮者を迎える各公演では、指揮者それぞれの音楽性を発揮するバラエティ豊かなプログラムを展開した。

第 951 回、第 952 回には、アンドリュー・リットンが登場。新世代をリードするヴァイオリニスト金川真弓を独奏に迎え、爽快なアメリカン・プログラムで聴衆を惹きつけた。2018 年に都響で日本デビューを飾り、飛ぶ鳥を落とす勢いでクラシック界を席卷する指揮者クラウス・マケラが待望の再登場を果たした第 954 回は、“今年一番の演奏”と評されるほどの熱演となり、クラシック音楽界の話題をさらった。第 959 回は、日本の管弦楽曲に深い共感を持つ下野竜也の指揮のもと現代日本作曲界の重鎮として活躍し、2006 年から 2010 年にかけて都響定期「日本管弦楽の名曲とその源流」シリーズのプロデューサーを務めた別宮貞雄氏の生誕 100 年（没後 10 年）を記念して、弦楽器のための協奏曲 3 曲を一挙に演奏した。そのほか、コロナ禍の影響で来日が叶わなかったトマス・ダウスゴー（第 960 回）、準・メルクル（第 961 回）、ヨーン・ストルゴーズ（第 966 回）が満を持して登壇した。

第 967 回、第 968 回にはフランスの名指揮者ヤン・パスカル・トルトゥリエが 12 シーズンぶりに都響の定期演奏会に登壇し、フローラン・シュミット《協奏交響曲》（ピアノ：阪田知樹）、ショーソン《交響曲》、ラロ《スペイン交響曲》（ヴァイオリン：ベンジャミン・ベイルマン）、ベルリオーズ《幻想交響曲》という華やかなフランス音楽を指揮し、多彩な表現力で都響の実力を存分に引き出した。都響初登壇となったベン・グラスバークは、自ら提案のリヤードフヤストラヴィンスキーに加え、ベルリン・フィルの若き第 1 ソロ・チェリスト、ブリュノ・ドルプレールとのサン＝サーンスなど、ドラマティックでカラフルなプログラムを披露した（第 969 回）。

イ プロムナードコンサート（5 回）

プロムナードコンサートは、親しみやすい名曲と第一級の出演者がステージを彩る休日マチネのコンサートとして、幅広い音楽ファンから好評を得ているシリーズである。2022 年度はサントリーホールで 5 回実施し、クラシック音楽入門者も楽しめるプログラムでオーケストラ音楽の一層の浸透を図った。

No. 397 は、世界が注目するクラウス・マケラがショスタコーヴィチの超大作、交響曲第 7 番《レニングラード》を披露し、音楽評論家やジャーナリストからも絶賛の声が挙がるほど際立って充実した演奏を繰り広げた。No. 398 では、終身名誉指揮者小泉和裕がベートーヴェンの交響曲第 6 番《田園》、レスピーギの交響詩《ローマの噴水》《ローマの松》という情感溢れる名曲プログラムを指揮し、絶賛を集めた。

No. 399 は、ハンガリー出身で、リエージュ王立フィルハーモニー管弦楽団の音楽監督を務めるゲルゲイ・マダラシュが都響デビューを果たし、俊英ヨゼフ・シュパチェクをソリストに迎え、バルトークのヴァイオリン協奏曲第 2 番等を探り上げた。No. 400 は、2021 年 9 月の定期演奏会に緊急出演し、成功を収めたデイヴィッド・レイランドがシューマンの《マンフレッド》序曲と交響曲第 3 番《ライン》の間に、モーツァルトのピアノ協奏曲第 20 番（ピアノ：ティル・フェルナー）を配したプログラムで再登場した。さらに、音楽監督大野和士が登壇した No. 401 は、20 世紀の扉を開いた作曲家バルトーク、ラヴェル、ドビュッシー作品をお届けし、バルトー

クのピアノ協奏曲第1番では、大野が信頼を寄せるジャン＝エフラム・バウゼが研ぎ澄まされた技巧で会場を魅了した。

ウ 特別演奏会（10回）

① 都響スペシャル（6回）

音楽監督大野和士が4月と2023年3月の3公演に登壇し、いずれも定期演奏会と同演目の3プログラムを指揮した。また、7月は首席客演指揮者アラン・ギルバートが、2021年2月に他界したジャズ界の巨星チック・コリア作曲のトロンボーン協奏曲をこの曲を捧げられたニューヨーク・フィル首席奏者のジョセフ・アレッシを迎え日本初演した。さらに、12月には桂冠指揮者エリアフ・インバルがブルックナー《交響曲第4番》（第1稿）を携えて登場した（第962回定期演奏会と同演目）。

② 第九公演（3回）

年末恒例の「第九」公演は、桂冠指揮者のエリアフ・インバルに登壇し、東京芸術劇場、東京文化会館、サントリーホールで各1回実施した。

③ その他（1回）

多摩地域の聴衆拡大を意図し、1月に都響・八王子シリーズを実施。川瀬賢太郎の指揮のもと聴きごたえのある名曲プログラムを披露した。

（2）共催・提携公演（6回）

ア 都響・調布シリーズ（1回）

身近な会場での演奏会開催を求める音楽ファンのニーズに応えるとともに、多摩地域の活性化を意図したシリーズで、ホールと連携することにより地域との繋がりを深めている。2001年から公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団との提携により実施しており、本年度で23回目を迎えた。藤岡幸夫の指揮で、4月に調布市グリーンホールで開催した。

イ オーケストラ・キャラバン ～オーケストラと心に響くひとときを～（2回）

文化庁の「統括団体によるアートキャラバン事業（コロナ禍からの文化芸術活動の再興支援事業）」の一環として、オーケストラ、オペラ、バレエ、演劇、能、ポップス、文化施設等の関係団体が力を合わせ、文化芸術の重要性や魅力を発信することによりコロナ禍による萎縮を乗り越え、社会全体の活性化を図ることを目的として、日本オーケストラ連盟に加盟する22のオーケストラが参加した事業である。都響は倉敷市と高知市で公演を実施した（指揮：下野竜也、ピアノ：牛田智大）。

ウ ボクとわたしとオーケストラ（2回）

東日本大震災後の2012年2月に、福島県いわき市内全域の小中学生を対象とした初めてのオーケストラ公演を開催して以来、いわき市の子供たちを音楽で励ます目的で実施している。11月にNPO法人いわきの子どもたちに音楽を届ける会、いわき芸術文化交流館アリオス、株式会社いわき市民コミュニティ放送（SEA WAVE FMいわき）との共催で開催した。

エ ふれあいコンサート（1回）

障害を持つ方やそのご家族を対象とした演奏会を、東京都及び公益財団法人日本チャリティ協会と連携して実施しており、本年度で39回目を迎えた。

依頼公演（25回）

ア 都内（15回）

八王子「ドラゴンクエスト」公演（4月）、東京・春・音楽祭（4月）、メトロポリス・クラシックス公演（10月）、NHK音楽祭2022（10月）、小山実稚恵 サントリーホール・シリーズ（10月）、新国立劇場2022/2023シーズンオペラ『ボリス・ゴドゥノフ』（11月）、日赤チャリティーコンサート（1月）、都民芸術フェスティバル公演（3月）に出演した。加えて、東京文化会館の「響の森」コンサート（7・1月）と「夏休み子ども音楽会」（8月）に出演した。

イ 地方・近郊公演（4回）

新潟公演（4月）、フェスタサマーミュージア KAWASAKI 2022（8月）、小田原公演（9月）、平塚公演（2月）に出演し、都響の認知拡大とともにオーケストラ音楽の一層の浸透と裾野の拡大を図った。

ウ TOKYO MET SaLaD MUSIC FESTIVAL [サラダ音楽祭]（6回）

サラダ音楽祭は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を文化の面から盛り上げる取組「Tokyo Tokyo FESTIVAL」の一環として2018年に誕生した音楽祭である。サラダ=SaLaDの由来であるSing and Listen and Dance～歌う！聴く！踊る！をコンセプトに、誰もが音楽の楽しさを体感・表現できるプログラムを展開している。

オーケストラ公演は、日比谷野外音楽堂での「野音 de オーケストラ」、東京芸術劇場での0歳児から入場可能なコンサート「OK！オーケストラ」（2公演）と演出振付家の金森穰が率いる日本を代表するダンスカンパニーNoism Company Niigata（ノイズム・カンパニー・ニイガタ）とコラボレーションした「音楽祭メインコンサート」のほか、多摩地域で「プレミアムコンサート」（2公演）を開催した。さらに、「歌」や「ダンス」、「演奏」等のワークショップに加え、ミニコンサートや教育プログラムを実施した。

II 青少年のための演奏（定款第4条第1項第2号）

（1）音楽鑑賞教室（47回）

次代を担う子供たちに質の良い音楽を提供し、音楽・文化を愛する若者を育てていくことは、青少年育成に力を注ぐ都響の重要な使命の一つである。事前に教員や教育委員会等と打ち合わせを重ね、子供たちに親しみやすい曲から本格的なクラシック音楽まで、プログラム、企画、構成に工夫を凝らしており、子供たちのみならず関係者にも好評を得ている。本年度は都内16区市の各小中学生、都内の私立学校1校、2022年度に教育庁が実施した「子供を笑顔にするプロジェクト」の一環として都内の公立

学校 5 校を対象に、各地のホールにて 47 回実施した。

(2) マエストロ・ビジット (0 回)

都響指揮者 (マエストロ) 自らが、楽員とともに都内小・中学校等を訪問して特別授業を行い、子供たちとの対話を通じて音楽とオーケストラへの理解と音楽を創り上げていく楽しさや興味を深める取組である。本年度は実施困難な状況のため、開催していない。

Ⅲ その他の事業 (定款第 4 条第 1 項第 2、3 号及び第 2 項)

(1) 映像配信等 (19 回 [19 回] ([] 内は同時録音等))

新型コロナウイルス感染症の影響による映像コンテンツの需要拡大に伴い、YouTube 等での映像配信を継続して実施し、自主公演における新規の収録配信のほか、過去公演の映像等を配信。都響の演奏に触れる機会を創出し、ファンの拡大を図った。

依頼公演 (2 公演) において、ライブ配信を実施した。

(2) 小規模演奏会等 (78 回)

顔の見えるオーケストラとしてより多くの方々へ音楽を届けることを目指し、2002 年度から小規模アンサンブルを中心としたアウトリーチ型の演奏会を積極的に実施している。

上述の「子供を笑顔にするプロジェクト」の体験活動プログラムとして都内小・中学校で演奏を行った。また、都内保育園や神奈川県小田原市、大田区、葛飾区、荒川区、国分寺市の小・中学校、加えて特別支援学校にて演奏した「ふれあいミニコンサート」(共催:一般財団法人東京都弘済会)、「音楽の贈りものコンサート」(主催:公益財団法人メトロ文化財団)等、多くの園児・児童・生徒に演奏をお届けした。

東京都以外の地域へも積極的に出向いており、被災地支援として岩手県野田村、宮城県石巻市での演奏会を本年度も実施し好評を博した。そのほか、利島、神津島、三宅島、御蔵島、大島といった島しょ地域や多摩地域等、様々な場所で演奏会を実施し、活動の幅を広げた。

(3) 公開リハーサル・ゲネプロ (5 回)

TMSO サポーターを対象とした公開ゲネプロを、プロムナードコンサート、定期演奏会にて実施した。そのほか、依頼公演において 1 回の公開リハーサルを行った。

(4) 放送・録音 (11 回 [5 回] ([] 内は同時録音等))

2021 年にスタートした TOKYO MX2 の番組『アンコール! 都響』では、過去の演奏会から厳選した曲がノーカットで放送された (9 回)。このほか、CD 化を想定し同時録音を実施した。